

[熊本 S.J.C.D.例会 抄 録]

演 題 「自家歯牙移植」の再考

演者名 佐藤 俊一郎 (DR)

日 付 2013年9月24日 (火)

Keywords

1. 自家歯牙移植
2. 歯根膜
3. 再付着

抄 録

自家歯牙移植という言葉から、曲芸的治療（アクロバット治療）を連想する先生がいるかもしれません。その理由は、科学的根拠の乏しい時代の冒険的な移植がもたらした失敗と、それに由来する悲観論が現在でも多くの先生を支配しているからであろうと思われます。

私が自家歯牙移植を学んだのは、17年前名古屋で開業されている月星先生のセミナーでした。ちょうどインプラント治療が確立してきた時期であり、大学時代にも詳しく習った記憶のない自家歯牙移植に対して、当時は友人に無理やり誘われたからという理由であまり興味もなく受講したのを覚えています。

それ以来17年間にわたり多くの自家歯牙移植に取り組んでみて、アンキローシスや歯根吸収を起こすことなく長期的に機能している歯牙を目の当たりにすると、正しい知識と技術のもとに行われれば自家歯牙移植の予後は決して悪くないということが分かってきました。

今回は、一つの症例を通して、歯根膜の組織像や再付着の治癒過程を考察するとともに、術後経過を長期間追った症例を提示し、統計的な数字を下に自家歯牙移植の予後について自分の考えを述べたいと思います。

多くの先生からご意見・ご指導いただければ幸いです。